

野村マネツヤの叱咤の聲、折々響く。敵も思つた通りの攻撃法なるも、我よく應じ19—19となり、更に一點を加へ20—19となり、一點勝つかと思はれたが後前衛の連絡亂れ20—20となりジユースとなる。而るに前衛の連絡、又破れ20—22となり、惜くも一セットを敵に許す。

第二セット (五高21—11山口高商)

このセットに入るや五高の作戦効を奏し山口手も足も出ず、呆然自失の態。

第三セット (五高21—19山口高商)

作戦の効よく奏し、前半全く敵を壓したが、後半敵盛り返して、追撃するも及ばず。

第四セット (五高22—20山口高商)

このセット、最初より接戦を思はせた。五高リードして、10—10のとき、敵の中衛

センターのキル、前衛陣を抜きて來り、地に落ちしかと見たが、後衛センター塚本飛び付いて之を捕へ、中衛センター之を追打し、11—10とリードし、チェンジコートを取り優勢であつた。双方盛にファインプレイ續出し、観衆汗を握る。其後山口高商

盛り返し、忽ちリードシ、16—16 16—17 16—18とリードして16—20となり、五高このセットを失ふかと思はれたが、後衛塚本の好守と、中衛センター、前衛左の攻撃に力強い所を見せ、中衛センター長谷川のキルと、左前衛松本のタツチにより、連續6點を取り、遂に優勝。多々其濱邊に、凱歌を上げた。以上の如き戦績を残した吾々は越人的なプレイヤーたる長谷川、塚本、松本の三君を龍南より送れりされど親愛なる龍南人よ吾人は更に本年龍南に優秀なるプレイヤーたる幡摩、平井、岡、小田部、圓山、武本君等を得たのである乞ふ將來の雄躍を!!!

馬術部

十一月二十七日

我部にとりて最も記念すべきの日なり。龍南會役員會開かれ今迄俱樂部として活躍し來つた吾々はその舊殻を破り新生の氣に燃えつ、此の役員會に委員三名を送るそして豊島熱烈に部創立の獻言をなす。十一日

だと云ふに説明をなす彼の顔は汗に輝くのだ。しかしして昨年より第二回目の排球部と共に無事可決されて此處に馬術部として輝かしき第一歩を踏み出した。則ち此れ昭和六年度の最初の光榮なのである。

以下昨年度の日誌の抜粹に依り六年組の現在迄脾肉の歎に沈むが如き無聊に代ふ。

一月十日俱樂部としての人員募集をなす。しかれども七十名にその人員を制限せざるを得ぬ事を悲む。

然も軍隊の都合に依り折角の土曜日すらその練習を危ぶむ事の如何に多き我部員一同の最も残念に思ふものである。冬休暇中十日間の練習及び師團主催の遠乗會に参加したる後一月二月三月の正規練習各二回宛春休練習五回四月五月六月各一回で六月に入つて初めて選手の特例練習を行ひ十五日の熊本四高專聯盟の馬術大會に備へる爲に此の一週間を酷暑と戦ひ實に寢食を忘れて意氣の練習なのだ選手未だ未熟なりとも此の不屈の五高魂をもつて勝たんのみだ。

六月十五日愈々試合の日なのだ復讐を誓つ

た昨年の敗北審判の横暴に勝を妨げられた去年の復讐なのだ、しかるに今年又天我にくみせず朝來の雨疑問を抱きつゝ、野砲に行

會場たる渡鹿練兵場に向へば醫豫既に馬を隊に歸して試合の延引を提議す色々の物議の後遂に行ふ事に決す時午後一時過ぎなり雨中の試合悲壯にして馬のコンデイション悪く滑る事おびたしく、落馬すら有り。障碍より初めて馬場に至り成績左の如き也

藥專、五高、高工、醫豫（隆碍）
五高、藥專、高工、醫豫（馬場）

平均一、藥專二、五高、（差七點）三、高工四、醫豫。

實に遺憾なり、勝を藥專に譲る僅か七點の差を以て我等も遂に破れたり、しかも大將格の小野崎の馬諸共の落馬あれ若しなかりせば嗚呼天のなせる事なり、何をか云はん。

七月十一日

部員として最も愉快なる夏期練習なり（黒石原合宿）

早朝五時半起床六時よりの乗馬練習である

壯快なる朝空氣を胸一杯に吸ひ元氣溢る種馬の背に朝露の光るを下に輕速歩の何んと氣持よき事だらう、馬はいな、き吾人の心は朗らかに澄む。

朝の運動後は各自思ひ／＼にやつて行き我は碁に將棋にキヤツチボール讀書に夏の日長を過して夜は又デカメロンも續けば其の日の馬の有様に花が咲きかくして單調な而も最も愉快な十日間の合宿を終る。

二十四日愈々大會の日なのだ天氣晴則吾々必勝に燃ゆ。先輩金田兄の御世話になる事多い。午前中主に余興午後愈々目指す普通

障碍協會外の参加校醫豫藥專佐高と我々の四校である、此の春の屈辱勝つ可き試合に負けた我々だ死んでも勝たねばならぬ。第一小野崎必勝の意氣物すこく馬を進める第一障碍逃避一他は無事通過金田兄は全部無事通過

第二回五高より豊島出場。馬は金田兄の使つた馬だ何の心配もない全部パス、金田兄と同點98なり

第三回安部馬は心配なし歩度を伸し過ぎて

逸飛び一つ落す。これで試合は終つた殆んど皆無と云ふ可き練習を以つて此の如き好結果實に天我に與せるか。

斷然壓倒的の勝利を豫想したるに第二位佐高との差僅かに十二點一、五高（總點二百七十七點）佐高、藥專、醫豫の順である、個人賞金田兄四等、豊島五等に入賞數百人中の此の榮譽遂に勝つたお、榮光に輝く此の優勝盃こそ我が部創立の礎石となつたとも云ひ得よう、夕陽に映ゆるカッブ。ア、我等の喜びや如何に、先輩諸兄の喜びや如何に。

最後に部員一同の嬉しみたる河内遠乗を十一月二十三日に舉行天高馬肥の絶好の日和だ、總數四十三名、九時半野砲隊を出て百貫を通り左に有明海遠く雲仙の風景をめて疾走砂煙を上げて行く自動車を下に見て十時半河内着、蜜柑も素晴らしき金色を見せ暗れやかに輝いてゐる、午後五時過一名の落伍者もなく無事歸隊。